



YOUTH

トップ昇格記念号

## レッズの新人選手から未来のレッズ戦士へ



レッズフェスタ2009で、大勢のファン、サポーターにお目見えした(03/13 /さいたまスーパーアリーナ)

2009シーズン、浦和レッズユースはトップチームに5人の選手を送り出した。高橋峻希、永田拓也、濱田水輝、原口元気、山田直輝(五十音順)だ。原口は、高校2年生でのプロ契約となり、ユースでの活動を1年縮めてトップでプレーすることになった。すでに5人は新チームの中で、宮崎・指宿キャンプや大原でのトレーニングに全力で取り組んでいる。ユース時代はチームの中心選手として高円宮杯優勝を始め、多くの試合で活躍した5人だが、トップチームでは新人選手。プロの厳しさにもぶつかりながら、しかし、ユースでの経験を生かして着実に前に進んでいる。レッズユースから1シーズンに5人のトップ昇格選手を出すのは、過去最多。これで現在トップチームに所属するレッズユース出身者は10人になった。ユース組が浦和レッズの中心を担っていく日もそう遠くないかもしれない。今回昇格した5人の選手からこれまでにサッカーに取り組んできた思いやユース時代の思い出、そして未来のレッズ戦士を目指すユース、ジュニアユースの後輩たちへメッセージをもらった。

## “自分”があることが大事

高橋峻希



ジュニアユースのころから、絶対にレッズでプレーするんだという思いを持っていました。そのためには試合にもどんどん出ていかなければいけないし、レベルアップするには代表にも入っていかないとはいけなと考えていました。

僕はジュニアユース時代の中学2年生のころなど全然試合に出ることができませんでした。そういうときは、気持ちを落とさないように、絶対にいつかチャンスがあると思って練習に取り組んでいました。それをできた理由というのは、サッカーをやりたいということだけで、特別な気持ちはありません。ただ、そうした苦しい経験をしているときに“自分”があるというのは、すごく大事なことだと思います。僕が大事にしていたのは、自分の持ち味をたくさん出そうということでした。それは今と変わりませ

ん。当時は、特にドリブルを仕掛けていたなと思います。自分の持ち味を信じてやっていました。出られなかったときも、自分の持ち味が間違っていると思ったときはないです。

中3で代表に入ったときには、絶対プロになってやるんだ、と思っていました。

ユースの高校1年のころも試合に出られないときがありました。学年でいうと一番下ですし、まだ出られないのが当たり前なんですが、そのときもすごく悔しかったです。練習がAチーム、Bチームに分かれていて、Bチームにいたときは絶対にAチームの人よりもうまくなってやる、という思いでやっていました。チャンスをつかんだときには思い切りやるだけでした。そこで結果が出たから今があると思います。

ジュニアユースやユースの仲間がいて良かったと思うこと？試合に出ていない人が出て行く選手に向かって頑張れよ、と言ってくれました。そのときに仲間は大切なんだと思ったのが印象に残っています。

レッズで良かったことの一つは楽しかったことです。みんな個性豊かでいろいろな人がいて楽しかったです。レッズへの思いというと、ずっと育ってきた場所なので特に意識していません。だけど、ジュニアユースのときなどはレッズでプロの選手になってやりたいという気持ちは強かったです。レッズにいたから今があるので、入れて良かったと本当に思います。

今まで出会った指導者の方との思い出で印象に残っているのは、ジュニアユースの中3のときに名取さんが監督で、そのときにキャプテンをやらせてもらったことが、自分にとっては良かったと思っています。自分はちょっと無口だった

ので、そこで少し話せるようになったというか、そうした変化がありました。また、口で言うだけではなく、プレーでも引っ張っていきこう、ということも意識していました。なぜ、そのときにキャプテンをやらされたかというのはわからないし、いきなりでしたが、良かったと思います。

プロになれるかな、という実感は、去年2種でトップ登録されたときです。自分のことを見ていてくれる、と思いました。高校も替わったし、そこからはもうプロの意識でいました。

それまでは試合で相手にぶっ飛ばされることはなかったんですけど、プロを相手にしたときにはまったく通用しないことが多かったので、Jリーグに出てから体幹の練習などを意識してやるようになりました。強い人を相手にすると、自分から相手をぶっ飛ばしてやろうと思っても、逆に飛ばされたりしてしまう。プロを意識するなら、その部分の強化はやっていた方がいいと思います。

一緒に入った仲間は、プロに入ってからはいバラとしか見ていません。誰かが試合に出たら、自分はずっと出られないんだと思うでしょうね。でも紅白戦とかで彼らと一緒にになると、自分がいて欲しいところにいるので、やっぱり慣れているんだ、と感じます。そういう関係をレッズで築いていければいいです。今は練習メニューも工夫されているし、若手とベテランをうまく組み合わせられていて、自分としては良いサッカーになると感じています。

## 高橋峻希から後輩に向けて

自分は、ジュニアユースのときに、試合に全然出られていなかったんですけど、中3のとき



にどんどん練習を積極的に行って、今の自分があるのはそのときの努力の結果だと思っています。だから、やっぱり努力すれば、最後は良いことがあるかなと思っています。だから、努力は大事だと思います。



中学3年生当時の高橋峻希

### 【PROFILE】

**高橋峻希** 33 MF  
1990年5月4日生まれ(18歳) 169cm / 68kg  
出身地：朝霞市  
朝霞三原FC 浦和レッズジュニアユース 浦和レッズユース 浦和レッズ

### 他の4選手から見た峻希は？

**山田** 外から見ている人からすると考えられないような私生活を送っています。内容は言えないですけど(笑)。試合を見ていると、おとなしい印象はあると思うんですけど、それとは違って一緒に住んでみないとわからない一面があります。

**永田** サッカーでは、見てのとおり、やっぱりパワー、スピード、技術もあって、迫力もあるし、僕が左サイドをやっている対戦したときは、抜かれるときもあるという感じです。

**原口** 仲良くならないとなかなか話さないです。サッカーは、献身的で動くし強いです。

**濱田** 峻希は...結構、謎が多いです。まだつかめません。これから察と一緒に住んで距離を縮めていきます(笑)。

### かけがえのない仲間ができた

永田拓也



中3のとき、高円宮杯に出場できなかった経験がありますが、そのときは落ち込んだというのではありません。ただ、名取さんから電話をいただいて、こういう時期もあるから、しょうがないという話もしてもらいました。チームに帯同もできませんでしたが、優勝してくれたときは僕もうれしかったですし、良い思い出になっています。悔しさもありましたけど、それ

は今につながっていると思います。

レッズで良かったのは、6年間、3年間、一緒にやってきた、一生つきあえるような仲間ができたことです。かけがえのないものです。だからこそ、試合に関して、僕は高校1年生から出る機会をもらっていたんですけど、同じ学年の仲間が最後の試合に出られなかったことが本当に心残りでした。彼らの分まで試合に出たら頑張ることが自分の仕事だと思ってプレーしていました。だから最後のJユースカップで三菱養和に負けてしまったのは本当に悔しかったです。

彼らは、試合に出場できないということがあっても自主練習などに真剣に取り組んでいました。ユースのときもそういう姿を見て、僕もやらなければいけないということを感じていました。また、それは今も感じています。僕はトップに上がって、現実問題としてすぐにレギュラーとして出場できるような立場ではないんですが、そこで落ち込んでいても仕方ないですし、現実を受け止めて、前向きに一生懸命に練習に取り組むだけだと思っているんです。それは、彼らの姿を見ていましたし、僕も今、そういうふうにはやらなければいけないと励みに思っています。そうした気持ちはジュニアユースでもユースでも、どこのカテゴリーでもサッカーをやっていく上では、変わらないものだと思うし、後輩たちにも大切にしてほしいです。それがなるとやっぱりダメだと思うし、出られないと思いますから。

僕は初めからプロというものを目指していたわけではないんです。3年生になるときも、まだ決めていませんでした。一日の目標として、2時間の練習の中でどれだけできるか、というのを毎日考えてやっていました。プロに決めたのは、ユースで進路相談のときです。心のどこかでプロということもあったかもしれませんが、本当に最後まで悩みました。プロに行こうか大学に行こうか。毎日一生懸命やってきて、プロという結果がついてきて、堀さんにも勧めていただきましたし、人生は一回だけということも考えました。すごく悩んで、その中で最後は自分で考えて決断しました。夏休みにトップの練習に参加するときには、もう決めていました。

峻希や直輝が実力を認められてトップに登録されたときは、自分もずっと一緒にやっていたので、ポジションは違うにしても同じくらいの力はあるんじゃないか、自分がどこにいるのかという、現在位置のようなものは把握できました。

堀さんはすごく周りのことを見ている人だと思います。私生活もそうですけど、サッカーでも。とりあえず、自分の意見をばんばん言うのではなくて、相手の選手の弱いところとかを見て、的確にいろいろ言ってくれました。

逆に名取さんは全く言わない人でした。戦え、ということは強調して言われたのを覚えています。最低限のことしか言わなかったです。ただ、それは1対1とか球際の戦いというのはサッカーの基盤なので、そういうところを徹底してくれたというのは、今につながっています。

### ■ 永田拓也から後輩に向けて

サッカーだけではないというか、サッカーだけ考えても見つからない部分もあると思いますし、違うことをしていても、人との関わりでもいいんですけど、自分を我慢しなければいけないところもあるし、自分を出さなければいけないところもある。社会とか人との関わりで考え

て、そこからサッカーに生きるというか、そういうところはつながると思うんです。サッカーから私生活につながることもあると思いますし、私生活がサッカーにつながることもあると思います。サッカーだけ、やっていてもうまくなるとは思うんですけど、いろいろなことをやってチャレンジすれば、サッカーにつながって良い結果になるんじゃないかって思います。



中学3年生当時の永田拓也

### 【PROFILE】

**永田拓也** 21 DF  
1990年9月8日生まれ(18歳) 169cm / 58kg  
出身地：さいたま市(旧浦和市)  
三室サッカー少年団 浦和レッズジュニアユース 浦和レッズユース 浦和レッズ

### 他の4選手から見たタクは？

**高橋** タクは、かつこいいですね。たぶん、誰が見ても。

**濱田** 一般ウケはいいかもしれないですけど、少し仲が良くなるとちょっと面倒なところがあります(笑)。そんなにおもろくないのにウケを狙ったり、わざとわかるようなボケをするんです(笑)。

**原口** 僕が左サイドにいて、タクが後ろにいて、心強いです。でも、オーバーラップしてきてもオトリに使います(笑)。あとはチャラチャラしているようですけど、やるところはしっかりやるし、わかまえています。

**山田** 人との絡みがうまいです。特に先輩に対してうまいです。プロになってからも一番、先輩と絡んでいると思います。僕と峻希と原口の方が早く入っているんですけど、タクが一番ですね。

### 一つの武器を磨くことが大事

濱田水輝



レッズユースを選んだのは、レベルの高いサッカーをしたかったという理由でした。いくつが高校を見たし、アルディージャも見ました。レッズからも、アルディージャからも来てほし



い、ということを書いてもらえたんですけど、その中で、レッズのジュニアユースが夏の全国大会を優勝していたし、年代の代表メンバーも何人かいるということを知っていたので、レッズに行った方が良いと思って決めました。

レッズに来て良かったと思うことはやっぱり日本一になれたことです。あとはいろいろな指導者の方たちや仲間と出会えたことが大きかったです。1年生のころから広瀬さんが使ってくれて、年代別の代表にも選ばれましたし、アジアで優勝もできました。そういう、より高いレベルでサッカーができて、そういう環境の中でいろいろな大会も経験して、レッズだからスペイン遠征も行けて、うまい選手もたくさんいることを知りました。レッズでなければそういう経験はできなかったと思うので、本当に感謝しています。あとは、うまい人たちがいる中に入って練習できたというのが良かったと思います。その中に入ったから僕もうまくなってプロになれたと思うし、みんなに感謝しています。仲間は、練習以外のときに一緒にいてバカな話をしたりするのが、すごく面白くて、それが高校時代の思い出として残っています。本当に仲の良いチームだったので。

去年のクラブユースで負けたことはやっぱり印象強いです。あの負けがあったから、高円宮杯の優勝があったと思います。もっと上に行くはずだったのに、という気持ちがあったんですが、先を見すぎたということもあったと思います。まさかああいう形で終わると思わなかったです。でも、それからこつこつと努力を積み重ねていって最後に高円宮杯を優勝という形で終わったので、すごく良かったです。負けた後は、切り替えてやっていただけですね。チームメイトとも特に何かを話したわけではないんですけど、みんなわかっていたと思います。高円宮杯を優勝してやろうという気持ちはもともと持っていましたけど、あの負けで本当に目の色が変わるくらい練習も頑張りました。みんな、何も言わなかったけど、そういうことが自分たちでできていたので、良かったと思います。

高1の終わりぐらいからサテライトに行くようになりましたが、そのときはまだプロを意識することはなかったです。高2ぐらいからは、ちょくちょく行くようになって、ちょっと意識し始めて、でも大学も考えていました。最後の最後まで実際は悩んでいたんですけど、やっぱり大学はいつでも行けますけど、プロになれるのはいつでもあるチャンスではないので、プロになろうと思いました。そういう意味では、本当に意識し始めたのは高3になってからです。

ただ、プロになるのは勇気が必要でした。どちらを選んでも、結果的にあちらにしておけば良かったということにはなると思ったんですけど、でも、自分が選んだ道が正しいと信じて頑張るだけです。

ユース時代に気をつけていた点は、指導者からのアドバイスで、何でもできる選手よりも一つの武器を身につけている選手の方が生き残れるということを知られていて、僕はヘディングが得意なので、そこは絶対負けない自信を身につけようと頑張っていました。

レッズユースに入ったときは、特別レッズに対しての思いというのはなかったんですけど、自然とレッズが好きになりましたし、トップチームも勝って欲しいということを感じていました。今はトップチームの一員ですし、よりそういう気持ちは強いです。

堀さんは、冷静で落ち着いています。熱くなるときはありますが、冷静に熱いです。僕が

ボランチをやり始めたときに、まだ何をやっていいかわからないときがありました。それで、身近な手本として直輝のプレーを真似しようとやっていたんですけど、「お前は直輝のプレーはしなくていい。お前は自分のプレーをしろ」と言われました。それが心に残っています。

## ❖ 濱田水輝から後輩に向けて

頑張っていれば試合に出られると思うし、楽しんでいけばいいのかなと思います。試合に出ないと楽しくないだろうし、サッカーを楽しむために練習を頑張るって試合に出て。試合に出ればうまくって、また楽しくなる。その繰り返しでレベルアップしていくうちにプロという世界も見えてくると思います。こつこつ頑張ると、楽しむことが大事だと思います。



高校1年生当時の濱田水輝

### 【PROFILE】

濱田水輝 26 DF  
1990年5月18日生まれ(18歳) 185cm / 80kg  
出身地: アメリカ・ニュージャージー州  
FC和光リトルイレブン De Anza Heaters Santa Clara Sporting Ruckus 浦和レッズユース 浦和レッズ

### 他の4選手から見た水輝は？

高橋 水輝は全てが強いんです。サッカーも強いですし、私生活も強いんです(笑)。

原口 僕はこういう性格なので、先輩とかにも歯向かうんですけど、でも唯一、負けるのは水輝です(笑)。

山田 水輝は人をよくいじります(笑)。山地と順平(菅井)と3人そろると、人にそういうちょっといを出して収拾がつかなくなります(笑)。

永田 水輝は秘密を持っていて、本当に話してくれない部分があります。その部分が何かはご想像にお任せします(笑)。

## 多くの人に育ててもらった

原口元気



振り返ると、いろいろな人に注意やアドバイスをしてもらって、本当にユースやジュニア

ユースのスタッフの人たちに見てもらって、怒ってもらったりして、そのおかげでどんどん良くなっていったということがありました。すごく感謝しています。ユースのことを考えるとそれが僕にとっては一番の思い出です。

言われたことの中で一番覚えているのは、私生活とグラウンドは一緒だから、私生活で少しでも気を抜くと、サッカーも悪くなるし、ということをはほとんどのスタッフから言われました。生活面で僕が気を抜いていたときなどは、スタッフの人たちが見ていて、すぐに注意してくれましたし、そうやってくれないと僕はだらけてしまうところがあったので、それで良くなってこれたというのがあると思います。

僕は結構先輩に対していろいろな言う方なので、本当だったらこいつ生意気だと思われると思うんですけど、でもそれを理解してくれて、仲良くしてくれて、それはユースでもジュニアユースでもレッズでもそういう環境だったので、それがありがたかったです。本当に良いチームだったと思います。言うことは言うし、ピッチを離れば仲が良かったです。そういう意味では、オンとオフの切り替えがすごくうまかったと思います。

プロへの気持ちは小さい頃から持っていました。ずっとそのことを考えてサッカーをやっていました。プロにはずっとなれると思ってやってきましたし、ジュニアユースに入ってからプロを身近に感じて練習に取り組みました。

とにかく、僕はとりあえずサッカーのことをよく考えているし、第一に考えています。他に楽しいことがあってもサッカーのことを思えば、犠牲にできたし、やってこれました。

指導者の人たちにもすごくお世話になっていました。ユースだけではなく、ジュニアユース時代に名取さんと淀川さんにもすごくいろいろお世話になりました。ジュニアユースのときは、思うようにいかないことが多くて、そういうときに踏ん張るというか、耐えるということを感じたと思います。

自分は、トップチームに上がってやっていますが、常に反省点の方が多いです。ただ、そういうところを直していれば良いプレーヤーになっていけると思っています。自然に、良いことより悪くてどうしようかな、ということを感じて、常に考えているんです。とにかく、サッカーのことを考えて、反省して自分に足りないところを見つけて、毎日トレーニングをしていけば絶対うまくなると思います。

堀さんはすごくいろいろ考えている人です。練習内容とかも考えなければいけないメニューとかで、そういう感じです。僕のイメージでは賢い、という感じです。

レッズに対する思いというのは、小さい頃からありました。埼玉県で生まれたので、レッズの試合は見えていましたし、親と応援に行って、いいなあ、と。ここでプレーしたい、入りたいという気持ちは、サッカーをやり始めてからずっとありました。だから僕にとって特別なチームです。

## ❖ 原口元気から仲間に向けて

やっぱりジュニアユース、ユースには良い指導者やお世話してくれる人があるので、そういう人たちの話をよく聞いて、自分でも言われたこととかサッカーのことを考えていけば、どんどんうまくなっていけると思うし、試合にも出られるし、勝てると思う。そうすると、トップというものも見えてくると思います。



今年はコースに出られないのが残念ですけど、その分、希（池西）とか哲（石沢）とかに頑張ってもらって、良い結果を残してもらいたいと思っています。



中学3年生当時の原口元気

### 【PROFILE】

原口 元気 24 FW  
1991年5月9日生まれ（17歳） 177cm / 63kg  
出身地：熊谷市  
江南南サッカー少年団・浦和レッズジュニアユース・浦和レッズユース 浦和レッズ

### 他の4選手から見た元気は？

**山田** 見てのとおり、やんちゃです（笑）。  
**永田** 生意気ですね（笑）。でも、わかまえるところはわかまえるので、その辺はいいかなと思います。  
**濱田** サッカーについては...、まあ、サッカーがうまいから許されている部分が多い人です（笑）。サッカーがなかったら、ちょっと社会的に通用しないところが多い人ではありますけど、まあ、サッカーがうまいからそれは良いと思います（笑）。  
**高橋** ドリブルは認めるんですけど、人間性としては、まだまだ未熟なところがあると思います。でもやっぱりかわいいですね。

## サッカーは助け合うスポーツ

山田直輝



ジュニアユースに入ったときからプロになりたいという気持ちでやっていました。中学2年のときは、一つ上の人たちとやっていて、同じ学年の選手が出ているのにベンチで見ていることが多くて、そのときは苦しかったです。その気持ちは他のことではカバーできないので、試合に出てやるという気持ちでずっとやっていま

した。コースに入ってから、ちょくちょくサテライトの試合に呼ばれたりして、本格的にプロになりたいという気持ちが強くなってきました。トップの練習に参加して、簡単なミスがなくさないといけないということを実感しました。

自分たちが中3のときに全国大会で二冠を獲って、この世代は強いと言われながら、高3のときのクラブユースがああいう結果で、自分たちも危機感を感じてやっていました。そういう中で高円宮杯を勝って、やっぱりあの世代は強かったと思ってもらえるので良かったですけど、ずっとそういう目で見られるプレッシャーは感じていました。高円宮杯は1試合1試合、試合前に「絶対に負けれない」とみんなで話してやっていました。

サッカーは、助け合いのスポーツで、自分が駄目でも他の人が助けってくれることもあります。3試合に1回はそういうことがあるので、トータルだと数え切れないくらいです（笑）。他の人の調子が悪いときは、自分がという気持ちになりますし、やはり仲間がいないとできないスポーツです。

年代別の代表チームに行っていたときもありましたが、だからと言って、ユースとの掛け持ちで難しい、ということは特になかったです。自分のプレーというのはどこのチームに行っても変わりませんから。

例えば、そのチームで自分がやっていることが評価されなくても、そこで自分のプレースタイルを変えなくていいという考えはないと思います。評価されないということも考えたことがないんですけど（笑）、自分のプレーを貫くだけです。僕のように背が小さくて、足が速いなどの特徴がない選手は走り回るしかないと思うし、チームにはそういうプレーヤーも、1人は必要とされると思うので。そういう個性があるのは大事なことだと思うので、そこをすごく伸ばして、足りないことは少し伸ばしていけば良いプレーヤーになれるのではないかと思います。

堀さんは謎が多い人でした（笑）。謎が多い、というのは、多くのことをあまり語らない、という意味です。やるべきことをやらせるけど、すごくプレーでも自由を多く与えていて、結果として堀さんが何を考えているのか、それがわからないという感じでした。だからこそ、自分たちが考えてやる、自分が考えてやるというサッカーが確立されていったのだと思います。あとは僕的にはすごく監督というイメージが強い人です。一番、心に残っている言葉は、ハーフ

タイムのときなどに、「見ている人に何か与えられるような、感じてもらえるようなサッカーをしよう」と言われたことです。

小学校のときからレッズに入りたいと思っていて、入って自由にやらせてもらえる中で、決まり事があって、私生活やサッカーの面でレッズでなければ伸びなかった部分がたくさんあったと思うので感謝しています。

### 山田直輝から後輩に向けて

中学校と高校では、体幹と走ることが一番大事だと思います。トップの練習に参加して、一番差があると感じたのはそこでした。あとはサッカーを楽しんで、一生懸命やれば良いと思います。



中学3年生当時の山田直輝

### 【PROFILE】

山田直輝 34 MF  
1990年7月4日生まれ（18歳） 166cm / 64kg  
出身地：さいたま市（旧浦和市）  
北浦和サッカー少年団 浦和レッズジュニアユース 浦和レッズユース 浦和レッズ

### 他の4選手から見た直輝は？

**永田** 本当に見ての通りですし、本当にサッカーっ子です。大好きですね、サッカーが。サッカーが一番に考えています。  
**原口** 無邪気なんですけど、頑固です。言ったらきかないですね。それとめっちゃくちゃ純情です（笑）。  
**濱田** 直輝は子どもっぽいんです。あとはおもしろいです。ただ客観的に見ているとおもしろいんですけど、直接からまれるとちょっと、そこはいいんじゃないかというのがありますけど。顔同様、子どもっぽいことをやって、グラグラ1人で笑っています。  
**高橋** サッカーの巧さと、顔が全然合っていないんです。本当に、すごいですよ。サッカー以外にもできることが多すぎて、できないことがないです。スポーツとかは本当に何でもできます。

## “その日”がもうすぐやってくる

トップチームの先発陣の多くをユース出身者が占める。長年の願いが実現する予感がする。クラブがトップチームの基礎作りを始めるとともに育成部門の抜本的強化に乗り出したのが02年だった。作った基礎の上に、主力選手を移籍で獲得することでレッズは数々のタイトルを手にしてきたが、そこに限界を見てレッズのスタイルを作ろうと決めた09年、レッズ再生の年に、6年前に蒔いた種が、見事な若木に育っていた。

たとえ先発全員がユース出身者であっても、そのサッカーが見る者をワクワクさせ、かつ勝利を呼ぶものでなければ、プロサッカークラブである意味がない。だが、その懸念はないだろう。今季クラブが掲げる「人もボールも動くサッカー」をレッズユースは体現してきたからだ。メンバーの多くを占めるだけでなく、ユース出身選手がトップチームを引っ張っていく日が、そう遠くない時期にやって来ることを僕は確信している。そして、現在ユース、ジュニアユースで日々トレーニングに励んでいる苗木たちが、さらに将来の浦和レッズを担っていくことも。